

国語の「C読むこと」の授業が「B書くこと」に及ぼす影響

—小学校第5学年の児童を対象として—

西村 光博^{*1}・森戸 幹^{*1}・佐伯 英人

The Effect of "C. Reading" on "B. Writing" in Japanese Language Classes:
A case of the 5th grade elementary school pupils

NISHIMURA Mitsuhiro^{*1}, MORITO Miki^{*1}, SAIKI Hideto

(Received August 2, 2018)

キーワード：国語、読むこと、書くこと、小学校第5学年

はじめに

文部科学省（2008a）の『小学校学習指導要領』では「各学年の内容の『A話すこと・聞くこと』，『B書くこと』，『C読むこと』及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示す事項については，相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに，それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。」（p. 27）と記述されている。このことは「C読むこと」と「B書くこと」といった各領域等に関連付けて指導することに意義があることを示している。

2015年度版の光村図書の小学校国語の教科書『こくご 五 銀河』（甲斐・高木ほか，2017）では「天気を予想する」と「グラフや表を用いて書こう」が掲載されている。なお、この『こくご 五 銀河』（甲斐・高木ほか，2017）を以下、教科書と称する。教科書における掲載の順は「天気を予想する」の後に「グラフや表を用いて書こう」となっている。

「天気を予想する」は「C読むこと」の（1）ウ、（1）オ、（2）イ、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の（1）イ（オ）に該当する教材として、光村図書（2015）の教師用指導書『小学校国語 学習指導書 五 銀河（下）』に示されている（表1）。なお、この教師用指導書『小学校国語 学習指導書 五 銀河（下）』を以下、教師用指導書（下巻）と称する。

表1 教師用指導書（下巻）に示されている「天気を予想する」の指導事項・言語活動例

「C読むこと」

- （1）ウ「目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながらかんたんだりすること。」
- （1）オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。」
- （2）イ「自分の課題を解決するために，意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。」

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- （1）イ（オ）「文章の中での語句と語句との関係を理解すること。」

文部科学省（2008a）の『小学校学習指導要領』より抜粋

「グラフや表を用いて書こう」は「B書くこと」の（1）ア、（1）ウ、（1）エ、（1）カ、（2）イ、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の（1）イ（キ）に該当する教材として、教師用指導書（下巻）に示されている（表2）。

*1 山口大学教育学部附属山口小学校

表2 教師用指導書（下巻）に示されている「グラフや表を用いて書こう」の指導事項・言語活動例

「B書くこと」
(1) ア「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」
(1) ウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」
(1) エ「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。」
(1) カ「書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」
(2) イ「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
(1) イ (キ) 「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。」

文部科学省（2008a）の『小学校学習指導要領』より抜粋

教師用指導書（下巻）では、「グラフや表を用いて書こう」において「本単元では、直前の単元の説明的な文章『天気を予想する』での学習を踏まえ、自分の考えを説得力をもって読み手に伝える文章を書くために、グラフや表を効果的に用いる活動を設定している。」（p.87）と記述されている。教科書においても、「グラフや表を用いて書こう」の文頭で「『天気を予想する』では、グラフや表を用いることで、筆者は、自分の考えに説得力をもたせていました。」（p.149）と記述されており、「天気を予想する」と「グラフや表を用いて書こう」を関連付けて指導することが示されている。

1. 研究の目的

「天気を予想する」の「C読むこと」と「グラフや表を用いて書こう」の「B書くこと」を関連付けて指導することは意義のあることと考えられる。このとき、「C読むこと」の授業が「B書くこと」にどのような影響を及ぼすのかを把握しておくことは、両者を関連付けて指導する上で大切なことと思われる。筆者らが先行研究を調べたところ、「C読むこと」の授業が「B書くこと」にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにした事例はみあたらなかった。

そこで、本研究では「天気を予想する」で「C読むこと」の授業を実践し、それが「B書くこと」にどのような影響を及ぼしているのかを検証した。本研究の目的は、「C読むこと」の授業が「B書くこと」にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにし、授業を関連付けて指導することについて議論することである。

2. 「天気を予想する」の授業実践

2-1 単元の展開

「天気を予想する」の単元の展開を表3に示す。なお、単元の展開は西村（2015）を参考にした。

表3 単元「天気を予想する」の展開

次	学習内容	授業	実施日	時数
1	「天気を予想する」を読み、筆者が、どのような説明方法の工夫をしているのかを考える。	授業①	9/26	1
	筆者の説明方法の工夫について話し合う。	授業②	9/28	1
2	表、写真、グラフなどの資料と文章を対応させていることについて話し合う。	授業③	10/3	1
		授業④	10/11	1
	前半に数値を多く使っていること、また、後半に数値をあまり使っていないことについて話し合う。	授業⑤	10/13	1
	問いの文が三つあることをもとに文章構成について話し合う。	授業⑥	10/16	1
3	これまでの学習で分かったことを確認する。	授業⑦	10/17	1

2-2 授業①

まず、これまでに児童が学習してきた三つの説明的な文章（「くちばし」、「すがたを変える大豆」、「生き物は円柱形」）を思い起こさせた。具体的には、説明的な文章（以下、説明文）の題名、筆者の写真、著者の名前を示したカードを黒板に貼り、それぞれの説明方法の工夫について復習した。復習した内容を以下に示す。

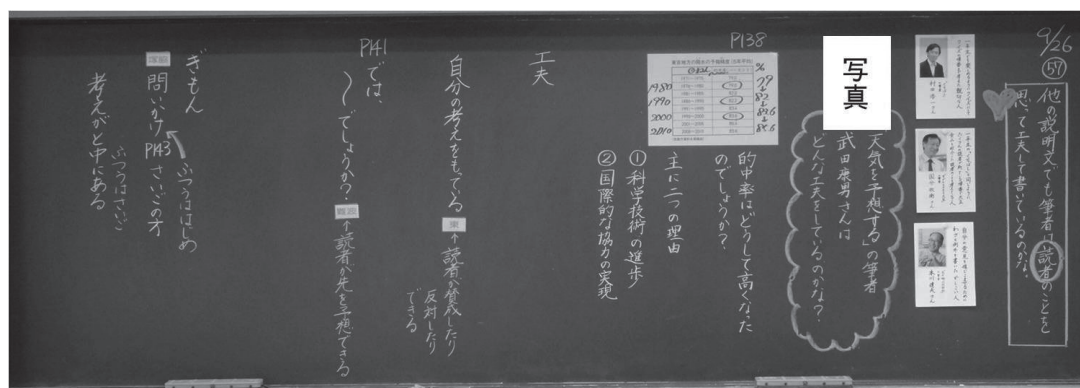
第1学年で学習した「くちばし」で筆者の村田浩一さんは、三つの事例（きつつき、おうむ、はちどり）それぞれに「問い」と「答え」がある構成にしていた。第3学年で学習した「すがたを変える大豆」で筆者の国分牧衛さんは、文章全体の組み立てを「初め」、「中」、「終わり」とし、「初め」で話題を提示し、「中」で具体的な例をあげて説明し、「終わり」で全体のまとめをするようにしていた。また、「中」で例をあげる際、「工夫」ごとに書き、各段落を並列の関係にしていた。さらに、文章を写真と対応させていた。第5学年で学習した「生き物は円柱形」で筆者の本川達夫さんも、文章全体の組み立てを「初め」、「中」、「終わり」としていた。「初め」と「終わり」で「生き物は円柱形」という筆者の考えを述べ、「中」でその例を数多くあげて読み手を納得させていた。また、例外に見える事にもふれ、それにも円柱形が入っていることを述べ、説得力を強めていた。

上記のことを復習した後、児童に3名の筆者の共通点を考えさせ、発表させた。児童の回答は「どの筆者も読者のことを思って工夫して書いている」であった。そこで、ここでは説明文「天気を予想する」を教材として学習すること、「天気を予想する」の筆者が武田康男さんであることを伝えた。次に、筆者の写真と黒板に貼り、学習課題「『天気を予想する』の筆者、武田康男さんは、どんな工夫をしているのかな？」を提示した。次に、第1段落から第3段落（教科書のp.138～p.141）を学級全体で読み、各段落の要旨を見出させた。児童の回答は、第1段落には「的中率は、どうして高くなったのでしょうか。」という「問い」が書かれており、第2段落には「科学技術の進歩」、第3段落には「国際的な協力の実現」という2つの理由が「答え」として書かれているであった。

第4段落以降は一人ひとりに本文を読ませ、各段落の要旨を見出させ、短文でノートに書かせた。このとき、気付いた筆者の工夫をノートに書くようにさせた。また、疑問に思ったことがあれば、これもノートに書くようにさせた。

授業終了時、この授業時間内に児童が気付いた工夫、また、疑問に感じたことを発表させた。このとき、児童が気付いた工夫は「筆者が自分の考えをもっている。読者がその考えに賛成したり、反対したりできるのでよい。」「『のでしょうか。』といった問いかけをしている。読者が先を予想できる良さがある。」であった。一方、疑問は「問いかけが最後の方にある。ふつうは『はじめ』にあるはず？」、「考えが途中にある。ふつうは最後にあるはず？」であった。

次の時間、学習課題について（段落ごとに筆者の説明方法の工夫について）話し合うことを伝えた。児童には、筆者の説明方法の工夫を見付け、段落ごとにノートに書いてくることを宿題として出した。授業①の板書を図1に示す。



写真：武田康男氏の写真

図1 授業①の板書

2-3 授業②

学習課題「『天気を予想する』の筆者、武田康男さんは、読者のことを思って工夫しているのかな」を提

示した。このとき、児童は、筆者の説明方法の工夫を見付け、段落ごとにノートに書いてきている。そこでこの児童の気づきを段落ごとに発表させた。児童の気づきは「グラフ、図、写真を使っている」、「問いかかけの後に自分の考えを書いている」、「ことわざを書いている」などであった。このとき、板書を見た児童から「普通は、問いかかけの文は一つなのに、問いかかけの文を三つ書いている」という気づきも発表された。次に、「読者にとってどんなよさがあるのか」と問い、これらの説明方法を用いる良さについてそれぞれ考えさせた。児童の考えは「グラフ、図、写真を用いると読者に分かりやすい」、「ことわざを用いると読者が楽しめる」などであった。そこで、「一番、納得した工夫は？」と発問し、児童に回答を求めた。その結果、「グラフ、図、写真を用いると読者に分かりやすい」であった。次の時間、この点について考えを深めることを伝えた。「次に（その他）、みんなで考えてみたいこと」を考えさせ、発表させた。児童の回答は「前半に数値が多く、後半に数値が少ない。なぜだろうか」と「問いかかけの文が三つあるのはどうしてだろうか」であった。授業②の板書を図2に示す。

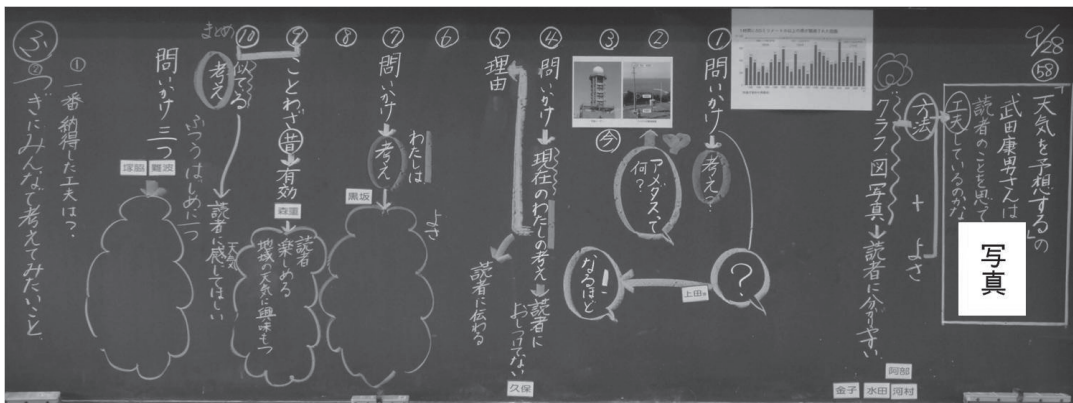


写真: 武田康男氏の写真

図2 授業②の板書

2-4 授業③

学習課題「表、写真、グラフを使っているのが、本当に工夫と言えるのかな？」を提示した。児童の考えは「言える」であった。そこで、「例えば、どこが工夫なの」と問い、本文を用いて説明させた。このとき、黒板には教科書を拡大した模造紙を貼っている。児童は、第2段落に書かれている「アメダス」を示し、「ここを読んで『アメダスって何?』となっても、上に写真があるので、『アメダスってこれか』と分かるから、工夫と言える」と説明した。この児童の発言を板書し、また、黒板に貼った模造紙上で、本文の「アメダス」という言葉とアメダスの観測装置の写真に線を引いて結び付けた。次に、「もし、なかったら」について考えさせた。児童の回答は「もし、表、写真、グラフのような資料がなかったら、読者が『よくわからない?』になる」であった。「表、写真、グラフのような資料は、だれが、だれのためを考えて選んでいるのか」について考えさせた。児童の回答は「筆者が読者のことを考えて選んでいると思う」であった。そこで、「文と資料(表、写真、グラフ)が対応しているところを線で結んでみよう」と指示し、黒板に貼った模造紙上(教科書を拡大したもの)で、対応している文と資料を線で結ばせた。



図3 黒板に貼った模造紙を用いて「指差し読み」をしているようす

その後、児童に指示棒で黒板に貼った模造紙を指し示させながら、音読をさせ、学級全体で確認した(図3)。なお、本稿では文や資料(表、写真、グラフ)を指し示しながら読む方法を「指差し読み」と称する。

授業終了時、たくさんの文と資料(表、写真、グラフ)を対応させた武田さんは、どんな人かを理由とともに考えさせ、発表させた。児童の回答は「読者思いのやさしい人だと思う。理由は、読者が『不思議』と思うだろうことを写真やグラフを使って、読者に納得できるようにしているからです。」であった。授業③の板書を図4に示す。

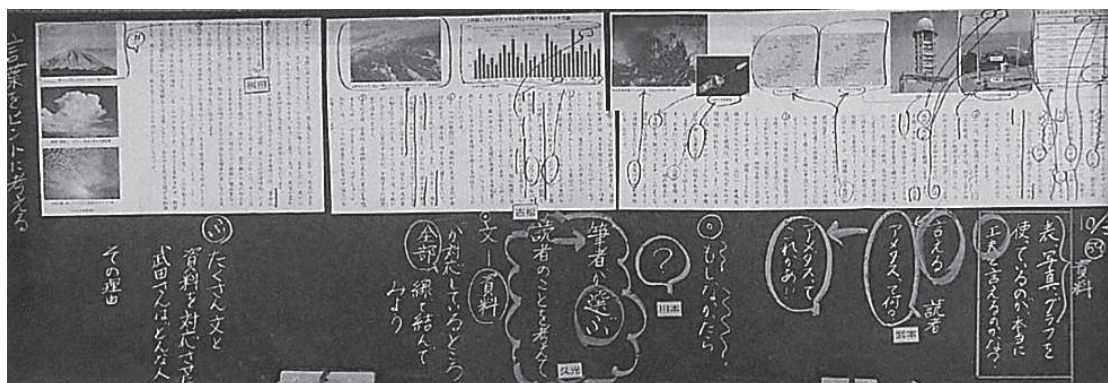


図4 授業③の板書

2-5 授業④

学習課題「武田さんは、読者のことを思って工夫して書いている？」を板書し、筆者がどのような工夫をしていたのかを確認した。児童の回答は「武田さんは、文と資料（表、写真、グラフ）を対応させて書いている」であった。前時（授業③）は、図3のように児童に指示棒で指し示させながら音読をさせ、学級全体で確認した。この授業（授業④）では、文と資料（表、写真、グラフ）を対応させて読むことを一人ひとりに体験させるため、児童を2人組にし、指示棒ではなく、自分の指を使わせて「指差し読み」をさせた。2人組で「指差し読み」をしているようすを図5に示す。全員が「指差し読み」を体験した後、読んでいて難しいところがあったかを質問した。児童から「第5段落が難しかった」という回答があり、その理由は「第5段落の突発的という言葉がよく分からないから」であった。そこで、突発的という言葉の意味を国語辞典（田近，2017）で調べさせ、確認した。突発的とは「事件などが急に起こること」であり、ここでは短い時間に「急に」はげしくふることと解釈した。そこで、教科書のp.142に掲載されているグラフでいうと、どこを指し示すのかを学級全体で確認した。このとき、児童から「でも、なんで武田さんは、難しい言葉を使ったのだろう」という発言があった。この発言には「武田さんは読者のことを思って工夫して書いているはずなのに、難しい言葉を使ったのはどうしてだろう」という児童の疑問があった。学級全体で話し合った結果、児童は「読者が5年生だから、これくらいの言葉は知っておいてほしいと思ったのではないかと考え、「もしも、読者が1年生だったら、この言葉は選ばないと思う」と解釈した。授業終了時、想定した読者の年齢によって、使う言葉が違ってくることを確認した後、この時間で分かったことと理由をノートに書かせ、数人に発表させた。児童の発表は「武田さんは『突発的』という難しい言葉を5年生が読む文章だから使ったと思う。この時間で分かったことは、武田さんが読者を思って書いているということです。」であった。授業④の板書を図6に示す。

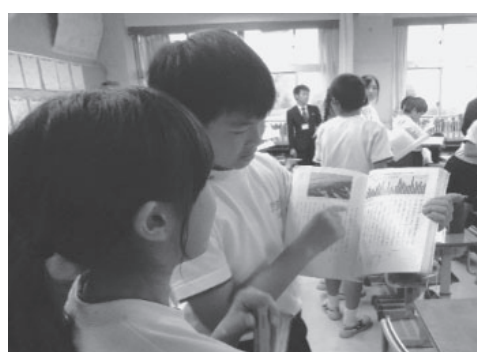


図5 2人組で「指差し読み」をしているようす

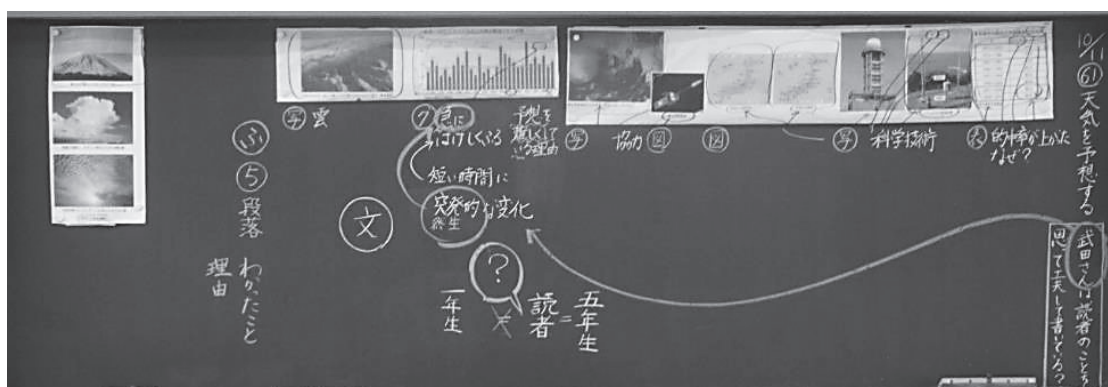


図6 授業④の板書

2-6 授業⑤

授業①で児童が見出した「前半に数値が多く、後半に数値が少ない。なぜだろうか」を受けて、学習課題を2つに分けて板書した。1つの学習課題は「前半に数値が多いのはなぜ？」であり、もう1つの学習課題は「後半に数値が少ないのはなぜ？」である。

まず、児童に数値で示すよさについて児童に考えさせた。児童の回答は「正確な数値があると、読者はなるほどと思う」であった。次に、「前半に数値が多いのはなぜ」について考えさせた。児童の回答は「前半は、事実が多くかかっているから、正確な数値があるとよく分かる」であった。そこで、児童に仮に数値を使わないで表現すると第1段落がどうなるかを考えさせ、表現させた。児童の回答は「わりと昔にはぼちぼちだった的中率が、少し昔に割と当たるようになったことが分かります。」であった。児童は両者を比較して「数値を使わないと曖昧で分かりにくい。だから、事実を伝えるときは、正確な数値を使った方がよい」と考えた。「後半に数値が少ないのはなぜ」について考えさせた。児童の回答は「前半は、図やグラフなどの資料が多いから、数値が多くなる」であり、また、「後半は、まとめて筆者の考えが書かれているから、数値を使う必要がない」であった。

授業終了時、武田さんはどんな人か。また、そう思う理由を確認した。このとき、児童は「武田さんは、読者思いの数に厳しい人。その理由は、読者が『なるほど』となるように数値を使っているから、読者思いと思うし、数値を正しく使っていたから数に厳しい人だと思います。」と発表した。授業⑤の板書を図7に示す。

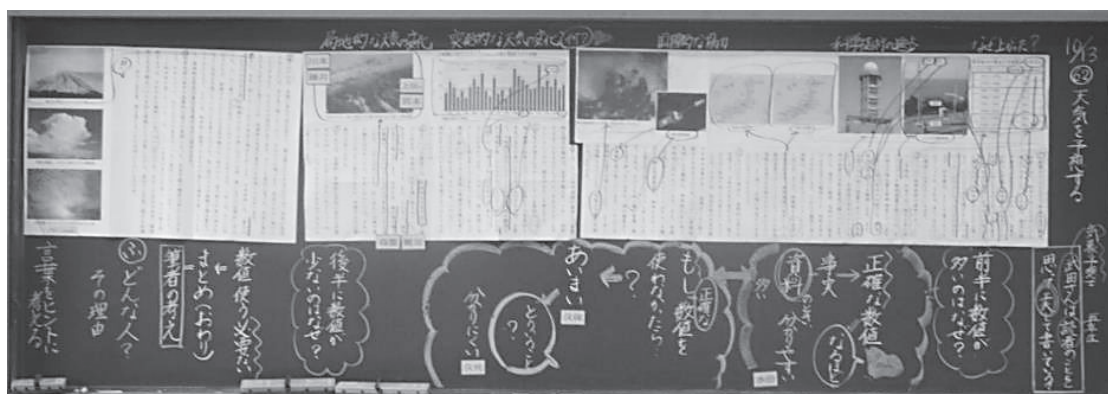


図7 授業⑤の板書

2-7 授業⑥

授業①で児童が見出した「問いかけの文が三つあるのはどうしてだろうか」を受けて、学習課題「武田康男さんが問いの文を三つ書いたのは、読者の分かりやすさにつながっている？」を板書した。

まず、児童に第1段落の問いかけ「的中率は、どうして高くなったのでしょうか」の後に何が書かれているのかを探させ、考えさせた。児童は、第1段落の問いかけの後に書かれている「それは、主に、二つの理由によるものといえます。」という文を筆者の考えと解釈した。そこで、第1段落の問いかけがあると読者がどのようなことを思うのかを考えさせた。児童の回答は「読者は『なんで?』と思う。」であった。さらに、その良さについて考えさせた。児童の回答は「読者が『なんで?』と思うと、自分なりの予想を立てられる。その後、文を見ると筆者の考えが書かれていて、読者は『そういうことか』となる。分かりやすいので良い。」であった。

児童は、第4段落の問いかけ「では、さらに科学技術が進歩し、国際的な協力が進めば、天気予報は百パーセント的中するようになるのでしょうか。」の後に書かれている「それはかなりむずかしいというのが、現在のわたしの考えです。」も筆者の考えと解釈した。また、第7段落の問いかけ「それでは、突発的・局地的な天気の変化を予想するために、できることはないのでしょうか。」の後に書かれている「わたしは、いくつかの手立てがあるのではないかと考えています。」も筆者の考えと解釈した。このとき、児童は、第1段落と同じ理由で、問いかけの後、筆者の考えを書くと分かりやすくなると思った。

次に、各段落間のつながりを板書上で矢印を書いて示し、第1段落から第10段落のつながり方を確認した。この文章構成をもとに「三つの問いと答えがどのような役割をしているのか」を考えさせた。児童の回答は

「問いがあって答えがあって、それを受けて、問いがあって答えになっている。三つの問いと答えがあって第10段落の一番伝えたいことに文の内容をつなげている」であった。このとき、児童から「第1段落から第10段落までが上手くつながっている。だから、分かりやすい」という発言もみられた。授業⑥の板書を図8に示す。

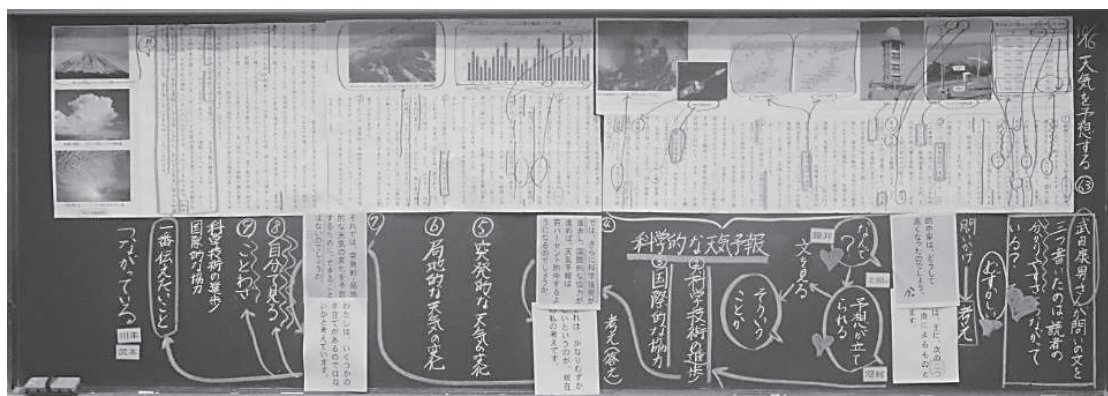


図8 授業⑥の板書

2-8 授業⑦

学習課題「読者のことを思って工夫している武田康男さんの紹介をしよう」を板書した。まず、筆者が工夫した方法、また、その良さを確認した。児童は「表、写真、グラフなどの資料と文を対応させる」、「事実を伝えるときに正確な数値を使う」、「問い、答え、問い、答えを繰り返し、最終的に一番伝えたいことにつなげる」の三つを筆者が工夫した方法と回答した。これらの方法の良さはいずれも「分かりやすい」であった。次に第1段落から第10段落までの文章構成（第1段落：問い、第2段落：答え、第3段落：答え、第4段落：問い、第5段落：答え、第6段落：答え、第7段落：問い、第8段落：答え、第9段落：答え、第10段落：結論（一番伝えたいこと））を確認した。さらに、各段落を読者が読んだ時、どのように思うのかを考えさせ、発表させた。児童の回答は「第1段落で『なんで?』と思い、次に『二つって何?』と思う。」、「第2段落、第3段落で『なるほど』と思う」などであった。

その後、著者の紹介カードの書き方を説明した。このとき、第5学年で学習した「生き物は円柱形」の筆者の本川達夫さんの紹介カードを例として示し、紹介カードの表面には「筆者の人柄」を書き、裏面にはそれを裏付ける根拠を書くように指示した。この著者の紹介カードを一人ひとりに書かせて単元の学習を終了した。授業⑦の板書を図9に示す。

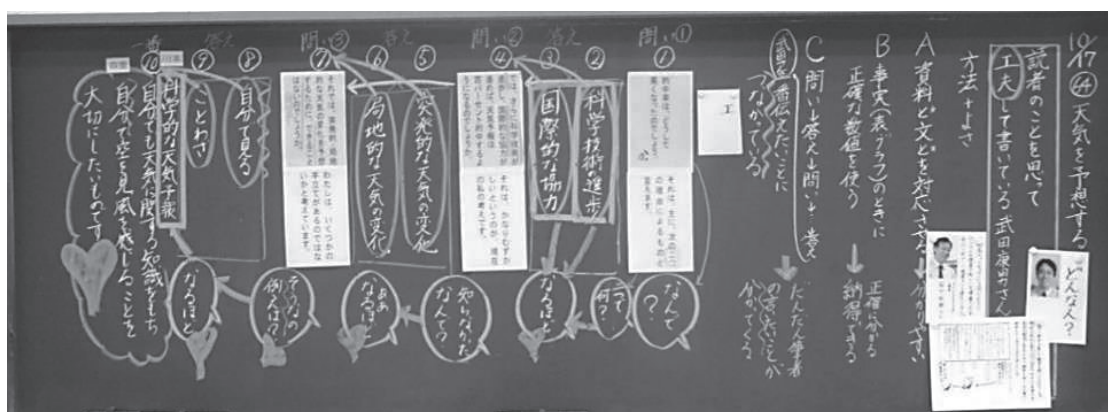


図9 授業⑦の板書

3. 理科の授業

小学校の理科では第5学年で「天気の変化」を学習する（文部科学省，2008a）。「天気の変化」の単元の展開は、学校図書（2015）の教師用指導書『みんなと学ぶ 小学校理科5年 教師用指導書 朱書編』

(p. 87～p. 100) に従った。授業時間は、教師用指導書に示されている時数に従い、6時間にゆとり1時間を加算して7時間（10月11日～10月19日）で実施した。この授業において、児童に4回、山口市（山口大学教育学部附属山口小学校）の空の様子を観察させ、天気について調べさせた。天気を調べさせた日時は2017年の10月11日の10：00、10月11日の16：00、10月12日の10：00、12日の16：00である。児童が野外に出て天気を調べた結果、10月11日の10：00が晴れ、10月11日の16：00がくもり、10月12日の10：00がくもり、10月12日の16：00が雨であった。

4. 調査方法

「天気を予想する」の授業が「B書くこと」にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする目的で記述式テストを作成した。なお、この記述式テストは理科の「天気の変化」に関する理解度を把握する目的で作成したものである。

作成した記述式テスト（A3の紙）を図10に示す。記述式テストでは「山口市の天気が晴れから雨に変わったのはなぜだろう？」という教示を行い、記述式テスト用紙の上半分に、10月11日の10：00、10月11日の16：00、10月12日の10：00、10月12日の16：00の雲画像を図1～図4として示し、アメダスのこう水量（こう雨情報）を図5～図8として示した。雲画像の図1～図4を上段、アメダスのこう水量（こう雨情報）を図5～図8を下段に配置した（同時刻の雲画像とアメダスのこう水量（こう雨情報）を上下に示した）。山口市（山口小学校）の天気も併記した。雲画像（図1～図4）とアメダスのこう水量（こう雨情報）（図5～図8）は日本気象協会のWebサイト「tenki.jp」より引用した。なお、本稿では、記述式テストに示した図は、図1～図8と示し、本稿中の図1～図8と区別した。

記述式テスト用紙の下半分に8行の記述欄を設定した。この記述欄には、前述した教示（「山口市の天気が晴れから雨に変わったのはなぜだろう？」）に対する回答を記述させた。

記述式テストの実施日は2017年10月19日であり、記述式テストは理科の「天気の変化」の授業時間に実施した。なお、「グラフや表を用いて書こう」の授業開始日は2017年10月20日であった。つまり、記述式テストは、「天気を予想する」の授業を終了した後に行い、「グラフや表を用いて書こう」の授業を実施する前に行った。記述式テストを実施するにあたっては、記述式テストの配付時に「国語で『天気を予想する』を学習しました。『天気を予想する』で学んだことを、このテストで活用してください。」と口頭で児童に伝え、記述式テストを行った。

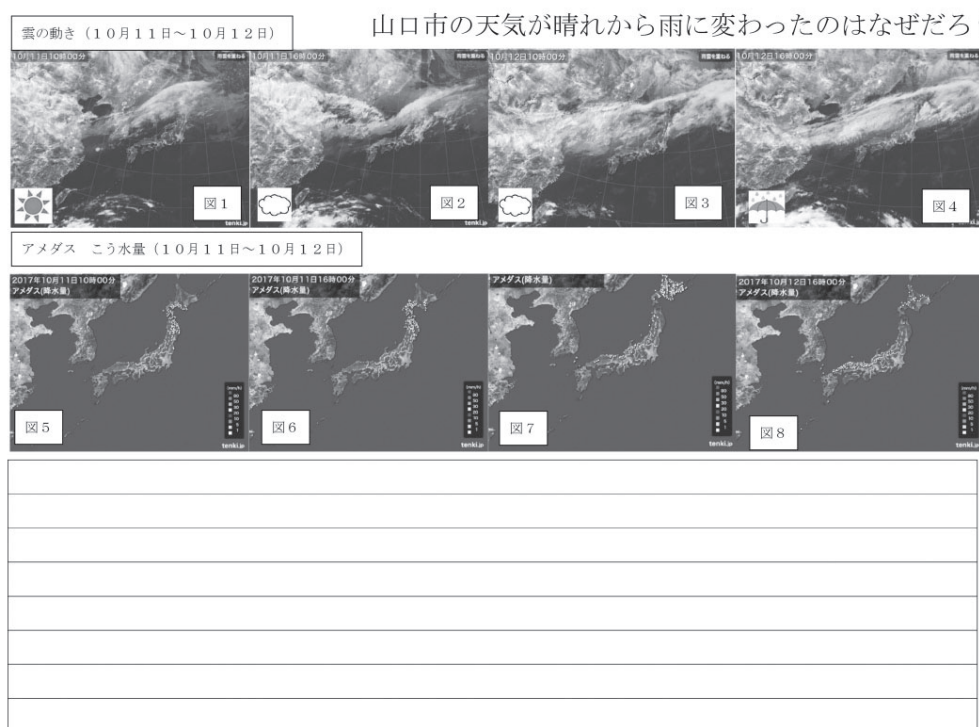


図10 記述式テスト

5. 分析方法

記述式テストに書かれた記述を読み、表4に示した4つの評価項目（評価項目A～評価項目D）において、それぞれ記述あり、記述なしで評価した。なお、4つの評価項目のうち、評価項目A～評価項目Cは、表2の（1）エ「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。」を測定するために作成した。

また、「天気を予想する」の授業では「筆者が読者のことを思って工夫して書いていること」を、単元を通して大切に、実践した。そこで、評価項目Dは、読者を意識した表現が用いられているか否かを測定するために作成した。

なお、記述式テストは、前述したように理科の「天気の変化」に関する理解度を把握する目的で作成したものである。理科の理解度の状況把握については、本研究の目的ではないため、本稿では省略した。

表4 記述式テストの評価項目

記号	評価項目
A	「図1には」のように見るべき図が示されている。
B	図から読み取れることが正しく書かれている。
C	「私は～ように考える」のように自分の考えが書かれている。
D	「～を見てください」といった読者への指示、また、「～でしょうか?」といった読者への問いかけなど、読者を意識した表現が使われている。

6. 結果と考察

記述式テストに書かれた記述を読み、表4に示した4つの評価項目（A～D）において、それぞれ記述あり、記述なしで評価した結果を表5に示す。表5をみると、いずれの評価項目においても「記述あり」の人数が多く、良好な結果であるといえる。このことは、「天気を予想する」の授業が「B書くこと」に良好な影響を及ぼしていることを示している。

表5 記述式テストを分析した結果

記号	評価項目	記述あり	記述なし
A	「図1には」のように見るべき図が示されている。	29	5
B	図から読み取れることが正しく書かれている。	29	5
C	「私は～ように考える」のように自分の考えが書かれている。	32	2
D	「～を見てください」や「～でしょうか?」といった指示や問いかけなど、読者を意識した表現が使われている。	30	4

児童数：34名

おわりに

前述したように、教科書では「天気を予想する」の後に「グラフや表を用いて書こう」が掲載されており、教師用指導書（下巻）では両者を関連付けて指導することが示されている。

「天気を予想する」の授業では「C読むこと」を指導目標として実践した。本研究では、この授業を通して、児童は直接的ではないが、「B書くこと」に関することを身に付けていたことが分かり、授業が「B書くこと」に良好な影響を及ぼしていたことが明らかになった。このことは、「天気を予想する」で児童が身に付けた「B書くこと」に関する力をもとに、「グラフや表を用いて書こう」の授業を実践すると「B書くこと」の指導目標が達成されやすく、効果的であることを示唆している。

また、本研究では国語と理科の授業を連携させて実践した。両者を関連付けて指導することについても、今後、教育を充実させるという視点から研究していきたい。

参考文献

甲斐睦朗・高木まさきほか（2017）：『こくご 一上 かぎぐるま』，光村図書。

- 甲斐睦朗・高木まさきほか (2017) : 『国語 三下 あおぞら』, 光村図書.
- 甲斐睦朗・高木まさきほか (2017) : 『国語 五 銀河』, 光村図書.
- 学校図書 (2015) : 『みんなと学ぶ 小学校理科5年 教師用指導書 朱書編』, 学校図書.
- 田近洵一 (2017) : 『例解小学国語辞典』, 三省堂
- 西村光博 (2015) : 「第5学年国語科学習指導案 単元 説明のしかたの工夫を見付け、話し合おう『天気を予想する』」, 『平成27年度研究集録 (初等教育研究紀要 第56号)』, 山口大学教育学部附属山口小学校, pp.126-129
- 日本気象協会 (n. d.) : 「過去の気象衛星 (2017/10/11) (日本付近) - 日本気象協会 tenki.jp」, http://www.tenki.jp/past/2017/10/11/satellite/japan_near/
- 日本気象協会 (n. d.) : 「過去の気象衛星 (2017/10/12) (日本付近) - 日本気象協会 tenki.jp」, http://www.tenki.jp/past/2017/10/12/satellite/japan_near/
- 日本気象協会 (n. d.) : 「過去のアメダス実況 (2017年10月11日) (降水量) - 日本気象協会 tenki.jp」, <http://www.tenki.jp/past/2017/10/11/amedas/precip.html>
- 日本気象協会 (n. d.) : 「過去のアメダス実況 (2017年10月12日) (降水量) - 日本気象協会 tenki.jp」, <http://www.tenki.jp/past/2017/10/12/amedas/precip.html>
- 光村図書 (2015) : 『小学校国語 学習指導書 五 銀河 (下)』, 光村図書.
- 文部科学省 (2008a) : 『小学校学習指導要領』, 文部科学省.
- 文部科学省 (2008b) : 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社.